# 名古屋市立大学
# SDGs活動レポート
# （2019年度版）

# Goal 1

# スクールカウンセラー養成にかかわる日米共同授業・共同研究

| 担当者 | 伊藤亜矢子:人間文化研究科(心理教育学科)、教授、(専門分野)臨床心理学 |
|---|---|

スクールカウンセラーの活動モデルは、その国の教育課題や教育制度などによって、多様であり、スクールカウンセラー養成も国によって工夫がなされています。一方で、いじめや不登校、災害や命にかかわる事件事故の緊急事態など、多くの国に共通する課題があります。日本のスクールカウンセリングの特徴や今後の展開、養成の工夫などを考える上では、他国との比較もひとつの必要な方法と考えられます。そこでこの取り組みでは、スクールカウンセリング活動に関する米国を中心とした国際比較や国際共同授業を行ってきました。現在、調査は17か国以上で行われています。授業は、大学院生と教員が米国に赴いて、米国の養成課程に参加するだけでなく、米国から大学院生と教員を日本に招いて、日米の大学院生が共同で多文化理解スキルを高めながらスクールカウンセリング活動について学び考える授業を行ってきました。

- 国際協働によるスクールカウンセラー教育の試み:ニューヨーク工科大学との多文化理解のための共同授業

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 2

# 農業用水の整備の歴史を学び、今後の水の使い方への視座を持つ(「日本の歴史(日本近代史1)」)

| | |
|---|---|
| **担当者** | やまだあつし:人間文化研究科(国際文化学科)教授 専門分野:日本近代史、日本植民地史 |

「日本の歴史(日本近代史1)」は、「日本の歴史(日本近代史2」)」とともに、近現代日本(旧植民地を含む)の水をめぐる歴史と社会をまなぶ講義である。近代史1は農業用水編であり、近代史2は都市用水編である。

2019年度の近代史1では、19世紀から20世紀にかけての日本(旧植民地を含む)の農業用水整備を、その背景としての飢餓克服や産業振興との関連を踏まえて講義を行うとともに、今後の農業や生活についての水の使い方について受講生に考えてもらった。

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 3

# 2019年度 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える活動

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」研究を教育や活動とリンクさせながら継続しています。<br>研究成果は学術発表するとともに、名古屋国際センターとの共催によるオープンフォーラムの開催や、前年度の活動をまとめた報告書の発行を通して、関係者にフィードバックしています。<br>また、フィリピンルーツの子どもたちのためのインフォーマルスクールでの健診と健康教育を毎年看護学部生とともに実施しています。 |
| 活動の時期 | 【論文発表】2019年9月<br>【フォーラム開催】2019年2月23日（2018年度実績）<br>【フィリピン子ども学校での健診】2019年2月7日（2018年度実績）、2020年2月20日 |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| | 調査結果パンフレット（2020年6月） |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - Asako Yoshino, Reginald B Salonga, Michiyo Higuchi. Associations between social support and access to healthcare among Filipino women living in Japan. Nagoya J Med Sci. 2021: 83; 551-565.<br>- Michiyo Higuchi, Maki Endo, Asako Yoshino. Factors associated with access to health care among foreign residents living in Aichi Prefecture, Japan: secondary data analysis. Int J Equity Health. 2021; 20(1): 135.<br>- 服部舞, 西村知亜紀, 樋口倫代. 愛知県54市町村の公式ウェブサイトによる外国人住民向け医療情報の提供状況. 国際保健医療. 2019; 34; 185-194. |
| 期待される効果、今後の展望 | NGO、フィリピン人、ベトナム人のコミュニティ、日本語学校、行政などにご協力いただき、さまざまな角度から外国人の保健医療へのアクセスの状況や関連要因を探り、学生や仕事をしていない人がリスクグループであること、ソーシャル・サポートが関連要因であることなどがわかってきました。<br>対象地域を拡大し、サポートになる情報はどのようなものかを調べる研究に発展させています。また、健診・健康教育の開催場所を増やしていく予定です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口 倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

名古屋国際センターでのオープンフォーラム

# 2019年度 大学丸ごと研究室体験　『市立大学・市立高校 高大連携講座』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度 から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。<br>この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・ 理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。 |
| 活動の時期 | 2019年7月～8月 |
| 関連URL | 2019年度 講座一覧 |

# NCU アジア拠点校シンポジウム2019 ～アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題～

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2019年 12 月 5 日（木）から 7 日（土）の 3 日間、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催した。大学間交流協定校の中でも特に強い協力体制にある海外拠点校 4 校（トルコ：ハジェテペ大学、韓国：ハルリム大学、フィリピン：サント・トーマス大学、タイ：プリンスオブソンクラー大学）から研究者を招へいし、「アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題」をテーマに講演や意見交換などを行う「NCUアジア拠点校シンポジウム2019」を開催しました。当日は、450 人を超える来場がありました。<br><br>また、期間中の12月7日には、サテライト講演会として、「地球環境変化の中で健康をまもる-SDGsへの科学的貢献を通じて」というテーマで、フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長の春日文子先生が講演を行いました。 |
| 活動の時期 | 2019年12月 |
| 関連URL | プレスリリース |

シンポジウムの様子１

シンポジウムの様子２

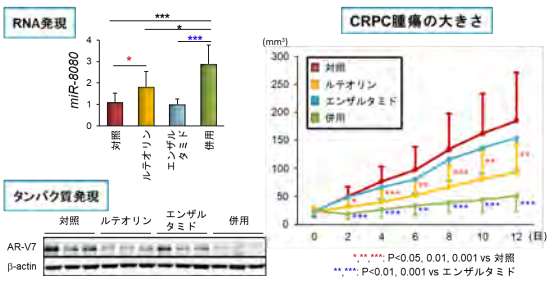
# 看護学生を対象とした「やさしい日本語」の教育

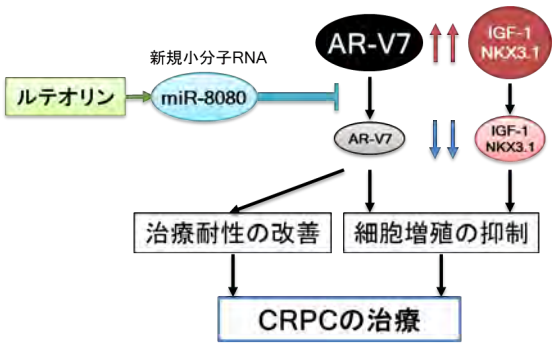
| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 保健医療の現場では、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションがますます必要となっています。通訳の依頼や自動翻訳機の利用とともに、共通語としての日本語が注目されています。<br>そのような中、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションについて看護学生らが考えること、外国人にもわかりやすい日本語についての看護学生らの知識、スキルを調べています。<br>さらに「やさしい日本語」についての教育を行い、その効果を検証しています。<br>既存のガイドラインや手引を活用しながら、効果的な講義・演習方法を探っています。 |
| 活動の時期 | 2019年9月17日：日本語を母語としない人びととの日本語によるコミュニケーションについての予備調査<br>2020年8月14日：「やさしい日本語」ワークショップ<br>2021年11月19日：「やさしい日本語」講義（今後毎年継続） |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - 松浦未来, 荒川若菜, 服部記奈, 樋口倫代. 日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識:予備調査と試験的介入. 国際保健医療. 2021; 36; in print. |
| 期待される効果、今後の展望 | 予備調査では、看護学部4年生らは「やさしい日本語」に特化した知識は多く持ち合わせていませんでしたが、日本語を母語としない人びととコニュニケーションするスキルを一定程度有していました。<br>そこで、現場でも有用となるたしかな知識とスキルが身につくことを目指し、現在は2年生の必須講義の1コマに「やさしい日本語」の講義・演習を取り入れています。<br>また受講学生の同意を得て、効果をフォローする研究を実施中です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

# 去勢抵抗性前立腺癌の治療

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 前立腺癌にはアンドロゲンを遮断するホルモン療法が効果的ですが、一部は治療に耐性を示す、悪性度が高い去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)に進行します。本研究では、フラボノイドの一種であるルテオリンがmiR-8080を誘導し、CRPCの治療耐性と関連するandrogen receptor (AR)のスプライスバリアントAR-V7を抑制することでCRPCの増殖や治療耐性を抑制することを解明しました。ルテオリンやmiR-8080はCRPCの治療に役立つ可能性があります。 |
| 活動の時期 | 2019年12月6日　プレスリリース |
| 関連URL | https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/media/20191206.pdf |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/ayaito |
| 関連する論文 | ① Naiki-Ito A et al.,Recruitment of miR-8080 byluteolin inhibits androgen receptor splice variant 7 expression in castration-resistant prostate cancer. Carcinogenesis. 2020, 41:1145-1157.<br>② Naiki T, Naiki-Ito A, et al.,GPX2 overexpression is involved in cell proliferation and prognosis of castration-resistant prostate cancer.<br>Carcinogenesis. 2014, 35:1962-7. |
| 関連する特許 | 特開2018-177658 (P2018-177658A)<br>発明の名称：去勢抵抗性前立腺癌の治療<br>発明者：内木綾、高橋智 |
| 期待される効果、今後の展望 | ルテオリンは、正常ARを抑制するmiRNAsを多く誘導することがわかっており、miR-8080と組み合わせたCPRCの治療法開発を目指します。CPRCの治療耐性を改善しうる分子標的と考えられます。薬剤を癌細胞に効率的に輸送するためのドラッグデリバリーシステムを導入したいと考えています。またルテオリンは、正常ARを抑制するmiRNAsを多く誘導することがわかっており、miR-8080と組み合わせたCPRCの治療法開発を目指します。 |
| 所属 | 医学研究科　実験病態病理学分野 |
| 氏名 | 内木 綾 |
| 専門分野 | 基礎医学、実験病理学 |

## 本研究から推測されるmiR-8080によるCRPC抑制機序

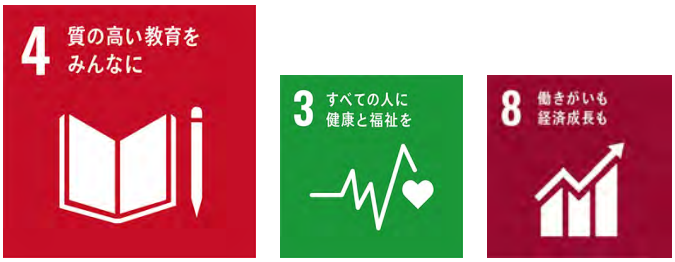


# 名古屋市主催の結核相談会への医学部薬学部看護学部生の参加

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 医学部薬学部看護学部が合同で学習する地域参加型学習を1年生に行っています。<br>そのチーム活動・実習の一環として名古屋市感染症対策室が実施する名古屋市中区での起居者を対象とした結核健診、相談会に参加させていただきました。医学部薬学部看護学部の学生は、来場者の受付、誘導、声かけなどを行い、通常の公衆衛生対策が届きにくい人へのアプローチ、クライアントへの対応について現場で学びを深めました。 |
| 活動の時期 | 2019年9月 |
| 期待される効果、今後の展望 | 日本は結核の感染者数は昔よりは減ったものの、18,000人近くの感染者が毎年報告されています。外国籍の方、ホームレスの方など通常の公衆衛生対策が届きにくい集団へのアプローチが重要となっています。実際のプログラムに参画することで得た学びを将来の医療保健従事者として活躍した際にも活用することが期待できます。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 金子 典代 |

# 保育の質を高めるための研修:中部地区幼児教育研究会




| | |
|---|---|
| **担当者** | 上田敏丈(人間文化研究科)、教授、専門:保育学 |

名古屋市・名古屋市立大学・名古屋私立幼稚園協会・名古屋民間保育園連盟・NHK中部放送局・中日新聞が、共催している中部地区幼児教育研究会は、1958年(昭和33年)に、中日新聞社の中日こども会を中心に設立されました。その後、事務局が名古屋市立大学に移転し、現在まで、62回の大会を行っています。本研究会では、中部地方の保育者を中心とした先生に、これからの保育をどう考えていくのか、また実践をより豊かにする知識や技術を提供しています。

第62回大会では、午前に鯨岡峻先生(京都大学名誉教授)に「関係の中で人は生きるー新保育論のためにー」をご講演いただきました。また、午後のプログラムでは、鈴木雅夫先生(名古屋市科学館)・吉田とき枝先生(同朋大学)に、「名古屋市科学館を楽しもう」をご講演頂きました。大会には、約500名の先生が参加されました。

- 中部地区幼児教育研究会

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 4

# 2019年度 大学丸ごと研究室体験　『市立大学・市立高校 高大連携講座』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度 から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。<br>この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・ 理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。 |
| 活動の時期 | 2019年7月～8月 |
| 関連URL | 2019年度 講座一覧 |

# 2019年度 名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画 『NCU グレイド・スキップ・チャレンジ 』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2019年度から「NCU グレイド・スキップ・チャレンジ」を開催しております。<br>これは、市立高校の生徒が、主に夏季休業期間の4～5日間、高校から大学に飛び級（Grade Skip）して、本学が実施する講座に参加し、大学水準の調査・研究活動を体験する企画です。高校教員にも参加いただいています。<br>2019年度に人文社会学部からスタートしました。 |
| 活動の時期 | 2019年8月 |
| 関連URL | 2019年度開講講座一覧 |

# 2019年度 名古屋市立大学高大連携授業

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、高校生が本学学生と一緒に大学の通常の授業を履修できる「高大連携授業」を開講しています。<br>「高大連携授業」は、意欲のある高校生に対し、多様な「学び」の機会を提供し、本学の教育研究に触れ、理解と関心を深めていただくことを目的としています。科目等履修生としてこの科目を受講し、試験に合格した場合、大学の単位を修得することができます。<br>例年、全学部の大学1年生を対象とした教養教育のうち、2科目を開講しています。<br><br>【2019年度開講科目】<br>■バイオサイエンス入門：総合生命理学部　湯川泰教授、木村幸太郎教授、田上英明准教授<br>■討論の中で問題を発見する哲学：人文社会学部　別所良美教授 |
| 活動の時期 | 2019年度後期（9月～1月） |
| 関連URL | 2019年度 科目一覧 |

# NCU アジア拠点校シンポジウム2019 ～アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題～

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2019年 12 月 5 日（木）から 7 日（土）の 3 日間、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催した。大学間交流協定校の中でも特に強い協力体制にある海外拠点校 4 校（トルコ：ハジェテペ大学、韓国：ハルリム大学、フィリピン：サント・トーマス大学、タイ：プリンスオブソンクラー大学）から研究者を招へいし、「アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題」をテーマに講演や意見交換などを行う「NCUアジア拠点校シンポジウム2019」を開催しました。当日は、450 人を超える来場がありました。<br><br>また、期間中の12月7日には、サテライト講演会として、「地球環境変化の中で健康をまもる-SDGsへの科学的貢献を通じて」というテーマで、フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長の春日文子先生が講演を行いました。 |
| 活動の時期 | 2019年12月 |
| 関連URL | プレスリリース |

シンポジウムの様子１

シンポジウムの様子２

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2019の報告

| 担当者 | 曽我幸代:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)ESD |
|---|---|

2019年12月7日(土)に名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂および看護学部棟3階を会場として、NCUサステナビリティ・シンポジウム2019「SDGsを通してみる名古屋:「気候変動」×「生物多様性」への私たちの取り組み」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部後援)を開催しました。本シンポジウムは、名古屋市立大学開学70周年記念事業プレイベントであり、かつNCUアジア拠点校シンポジウム2019関連イベントとしても位置づけられました。

本学が位置する名古屋市は、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表した。その後の環境政策は国際社会に称賛されるべく、特筆に値する取り組みでした。最終処分場建設候補地であった藤前干潟の建設計画を断念し、20世紀中に20%、20万トンというごみ減量を成功させました。2010年には市内でCOP10 (The tenth meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約第10回締約国会議)、2014年にはESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議を開催しました。こうした歴史を踏まえて、今年度、名古屋市および愛知県はともに、内閣府の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の「SDGs未来都市」に採択されました。

しかしながら、生物多様性の損失に関する地球環境は、国際社会で手遅れとされるほど深刻化しています。実際、名古屋市においてもCOP10以降の取り組みの報告を一般市民が聴く機会はほとんどありません。昨年度に公開された次期総合計画案には、都市像の一つに「快適な都市環境と自然が調和したまち」と挙げられています。気候変動の影響で地球環境の変化も問題視される社会において、名古屋市はどのように生物多様性を保全し、かつ人々が快適に暮らすことができる都市環境をつくっていくことができるのか、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を通して名古屋市の社会づくりを見直す時機にあるといえます。

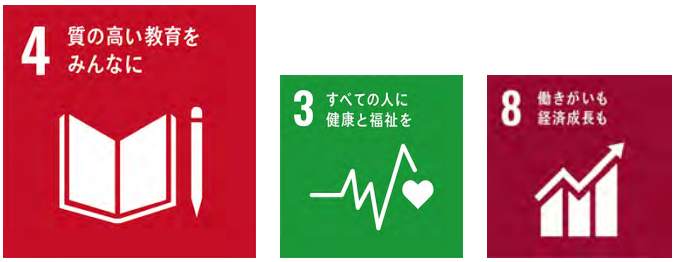
そこで本シンポジウムでは名古屋市にある課題を、とくにSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)目標13「気候変動に具体的な対策を」と目標14「海の豊かさを守ろう」および目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる生物多様性の損失という問題に対して、どのようにアプローチするのかを日頃の学びや研究をもとに子ども・若者らが報告し合いました。その後、都市環境づくりの関わり方としてどのように取り組むのかを考える、参加者による協働ワークショップを行いました。また引率する教員や参加する大人はこれらの問題に対して、どのように考え、取り組むことができるのかを考え、子どもと大人それぞれの意見を共有し合う場を設けました。教員においては、授業実践などでの問題やアプローチの共有の場となり、教員らの学び合うネットワーク構築につながることが期待されました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

- イベント開催報告

  シンポジウムのチラシ （PDF ファイル 0.95MB）

# 保育の質を高めるための研修:中部地区幼児教育研究会




| | |
|---|---|
| **担当者** | 上田敏丈(人間文化研究科)、教授、専門:保育学 |

名古屋市・名古屋市立大学・名古屋私立幼稚園協会・名古屋民間保育園連盟・NHK中部放送局・中日新聞が、共催している中部地区幼児教育研究会は、1958年(昭和33年)に、中日新聞社の中日こども会を中心に設立されました。その後、事務局が名古屋市立大学に移転し、現在まで、62回の大会を行っています。本研究会では、中部地方の保育者を中心とした先生に、これからの保育をどう考えていくのか、また実践をより豊かにする知識や技術を提供しています。

第62回大会では、午前に鯨岡峻先生(京都大学名誉教授)に「関係の中で人は生きるー新保育論のためにー」をご講演いただきました。また、午後のプログラムでは、鈴木雅夫先生(名古屋市科学館)・吉田とき枝先生(同朋大学)に、「名古屋市科学館を楽しもう」をご講演頂きました。大会には、約500名の先生が参加されました。

- 中部地区幼児教育研究会

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 5

# ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたHIV予防の推進

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | HIV感染症の予防、セクシュアルヘルスをテーマに研究しています。集団レベルでHIVの予防を推進するためには、感染リスクが高いポピュレーションを見極め、その対象者に効果的な予防介入を継続的に実施することが重要です。 日本では、ゲイ・バイセクシュアル男性におけるHIV/AIDS感染拡大が最も深刻であり、彼らへのコミュニティベースの予防プログラムの立案、実施、評価に資する研究を当事者、NGO、行政、医療専門家、研究者のパートナーシップのもと行ってきました。平成28-30年度の厚生労働省エイズ対策政策研究事業では、乾燥血液スポット法(指先にランセット針を刺して取った血液をろ紙にしみこませ検査機関に送り、スクリーニング結果をWEBで確認する検査手法)を用いたコミュニティベースでのHIV検査機会の拡大を行います。 |
| 活動の時期 | 2005年～現在まで |
| 関連する論文 | 1. Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS Care, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339<br>2. Nigel Sherriff, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Michiko Takaku, Ross Boseley, Seiichi Ichikawa: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention, Health Promotion International, 32(3), 522-534, 2017. doi: 10.1093/heapro/dav096.<br>3. 金子典代, 塩野徳史：コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性のHIV・エイズの最新情報の認知度とHIV検査経験，コンドーム使用との関連．日本エイズ学会誌, 23(2), 78-86, 2021. |
| 期待される効果、今後の展望 | 通常の保健医療サービスが届きにくいマイノリティ集団にいかにアクセスし、必要なサービスを提供していくかは大変難しい課題です。<br>エイズ分野では、当事者、NGOが大きな力を発揮し、感染拡大の抑制に貢献してきました。この成果を目に見える形で残せるような、予防対策に資することができるような研究が必要だと考えています。また、エイズ予防の研究や取り組みにおいては、研究者、NGOや行政、医療、ボランティアの協働が鍵となります。研究においても、メンバーそれぞれの専門や能力を最大限に発揮できるチーム作りを重視しています。 |
| 所属 | 看護学研究科 国際保健看護学 |
| 氏名 | 金子 典代 |
| 専門分野 | HIV感染症、AIDSの予防、健康行動学、疫学 |

イギリスのブライトン大学との共同研究（英国でHIV検査キットを自動販売機で普及させる取り組みの成功事例の紹介を受けました）

# 名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。<br><br>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。 |
| 活動の時期 | 【男女共同参画宣言】2012年3月<br><br>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長） |
| 関連URL | 男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション |

# ダイバーシティ宣言・行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。 |
| 活動の時期 | 【ダイバーシティ宣言】2019年2月<br>【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで |
| 関連URL | ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制 |

# 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。 |
| 活動の時期 | 2013年以降 |
| 関連URL | 男女共同参画奨励賞 |

# 学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン

| 担当者 | 谷口由希子:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)社会福祉学 |
|---|---|

本プロジェクトは、名古屋市立大学と瑞穂区役所が締結した連携協力協定に基づき、子育て中の保護者や子どもたちにオレンジリボン(子ども虐待防止のシンボル)について理解を深めていただくことを目的として、子育てサロン「さくらひろば」(瑞穂区役所2階さくらルーム内)で子ども虐待防止に向けた広報を実施しているものです。

学生が子ども虐待や子育て支援について学んできたことをいかし、子育てにやさしいまちを目指す活動の一つとして、人文社会学部心理教育学科の谷口ゼミの学生10名、教員1名(谷口准教授)、そして瑞穂区役所職員3名を中心に企画・運営を行ったものです。

2019年度は、12月4日(水)に開催し、学生が演出を考えた歌とダンス「オレンジサンタクロース」の上演やオレンジリボンの紹介を行いました。当日は、地域で子育てをしている保護者及び1～3歳の子どもたち約40組が参加しました。

学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン （PDF ファイル 0.25MB）

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# 人間文化研究所シンポジウム「ジェンダー平等と日本社会の未来 労働・政治・文化」

| | |
|---|---|
| **担当者** | 菊地夏野:人間文化研究科、准教授、ジェンダー論 |

2019年12月14日、人間文化研究所主催シンポジウム「ジェンダー平等と日本社会の未来 労働・政治・文化」を開催した。講師に、竹信三恵子さん(ジャーナリスト・和光大学名誉教授)と樫村愛子さん(愛知大学)をお呼びし、ジェンダー平等の現状と課題、およびこれからの構想について討議を行った。当日は多数の来場者が参加し、質疑応答も活発におこなわれた。

関連記事一覧



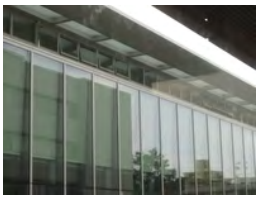
名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 6

# 田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 田辺通キャンパスでは、2007年度－2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。<br><br>■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。<br>■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。<br>■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。<br><br>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。 |
| 活動の時期 | 2007年度－2009年度以降 |
| 関連URL | 環境への主な取組み |


自然換気システム

室外のクールチューブ(吸込み)

室内のクールチューブ(噴出し)

# 水道の整備と疫病克服の歴史を学び、水道整備の国際協力への視座を持つ(「日本の歴史(日本近代史2)」)

| | |
|---|---|
| **担当者** | やまだあつし:人間文化研究科(国際文化学科)教授 専門分野:日本近代史、日本植民地史 |

「日本の歴史(日本近代史2)」は、「日本の歴史(日本近代史1」)」とともに、近現代日本(旧植民地を含む)の水をめぐる歴史と社会をまなぶ講義である。近代史1は農業用水編であり、近代史2は都市用水編である。

近代史2では、19世紀から20世紀にかけての日本(旧植民地を含む)の都市水道整備を、その背景としての疫病克服や産業振興との関連を踏まえて講義を行った。特に2020年度講義では、コレラの流行と水道整備との関連を念入りに講じた。

また(2020年度講義ではコロナのためできなかったが)2018年度講義ではさらに、JICA中部の協力により、アジア・アフリカの水道技術者との交流会を持ち、都市水道整備の国際協力についても学ぶことができた。

関連記事一覧



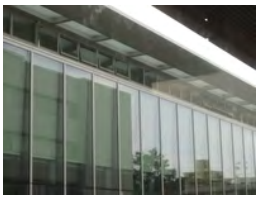
名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 7

# 田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策

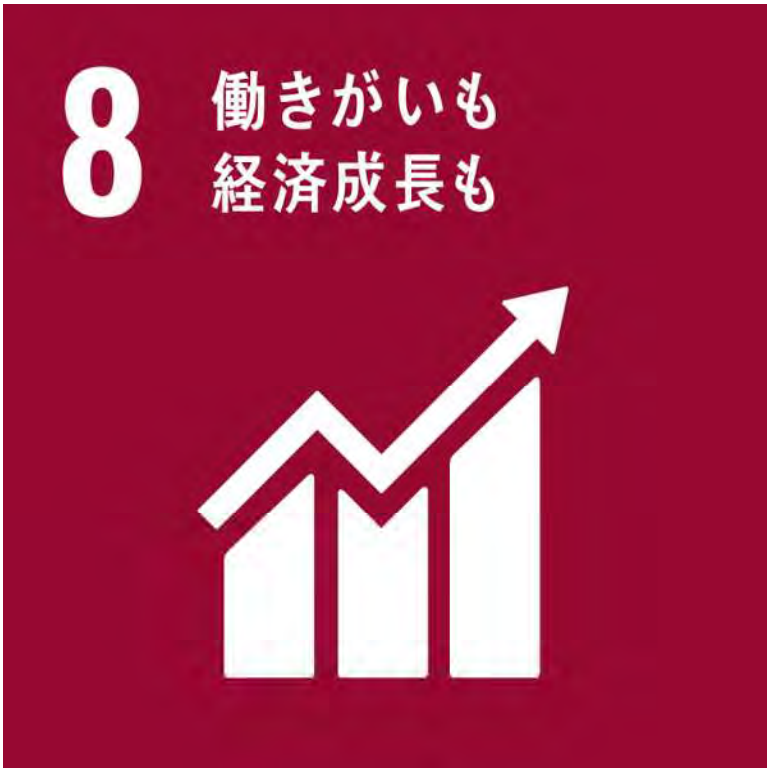
| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 田辺通キャンパスでは、2007年度－2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。<br><br>■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。<br>■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。<br>■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。<br><br>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。 |
| 活動の時期 | 2007年度－2009年度以降 |
| 関連URL | 環境への主な取組み |


自然換気システム

室外のクールチューブ(吸込み)

室内のクールチューブ(噴出し)

# Goal 8



# ダイバーシティ宣言・行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。 |
| 活動の時期 | 【ダイバーシティ宣言】2019年2月<br>【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで |
| 関連URL | ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制 |

# 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。 |
| 活動の時期 | 2013年以降 |
| 関連URL | 男女共同参画奨励賞 |

# 名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。<br><br>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。 |
| 活動の時期 | 【男女共同参画宣言】2012年3月<br><br>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長） |
| 関連URL | 男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション |

# 名古屋駅西地区のエリアリノベーション戦略の構築ーエキニシノミライに向けて

| 担当者 | 林 浩一郎:人間文化研究科(現代社会学科)、准教授、(専門分野)地域社会学 |
|---|---|

リニア中央新幹線開業に向け、再開発が進む名古屋駅西地区。その激変のなかで、草の根から地域文化を生み出すため、まちの皆さまとエリアリノベーション戦略を構想・実践してきました。

2017、2018年には、リノベーションまちづくりの先駆・清水義次氏、岡崎市のQURUWA戦略に取り組まれている山田高広氏、名古屋市住宅都市局の鶴田法仁氏、名古屋駅太閤通口まちづくり協議会の田中和生氏、「駅西あさごはん」という社会実験を行った大学生と、駅西リノベーション戦略を議論しました。

令和時代が幕を開けた2019年5月1日、名古屋市市民経済局「商店街商業機能再生モデル事業」を活用し、名古屋駅西銀座通商店街の空き店舗を生まれ変わらせた「喫茶モーニング」がオープンしました。このコミュニティ・ハブは、多様性と持続可能性をテーマとする市野将行氏と、ひきこもり状態にある方々を支援する「オレンジの会」が共同して生み出しました。その取り組みを紹介する「エキニシノミライ」では、設計を担当した栗本真壱氏、イベントを企画する大野嵩明氏、駅西でデザイン業を営む堀江浩彰氏、駅西文化を守り、革新する野田清太郎氏、駅西を調査する本学学生と、駅西カルチャーのミライを展望しました。

大規模再開発が続く名古屋駅の東側とは違う駅西の文化的アインデンティティを残しつつ、持続可能な発展をとげるためには、ローカルな資本が独自の経営戦略を立てていく必要があります。リノベーションまちづくりは、「草の根の私たちに、ここで稼がせろ!」という地域固有の内発的発展戦略となりうるものです。

- https://ncu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1761

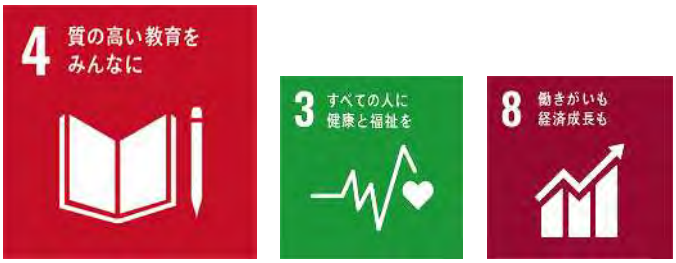
  エキニシノミライ （PDF ファイル 4.53MB）

駅西に生まれた「喫茶モーニング」

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

# 保育の質を高めるための研修:中部地区幼児教育研究会




| | |
|---|---|
| **担当者** | 上田敏丈(人間文化研究科)、教授、専門:保育学 |

名古屋市・名古屋市立大学・名古屋私立幼稚園協会・名古屋民間保育園連盟・NHK中部放送局・中日新聞が、共催している中部地区幼児教育研究会は、1958年(昭和33年)に、中日新聞社の中日こども会を中心に設立されました。その後、事務局が名古屋市立大学に移転し、現在まで、62回の大会を行っています。本研究会では、中部地方の保育者を中心とした先生に、これからの保育をどう考えていくのか、また実践をより豊かにする知識や技術を提供しています。

第62回大会では、午前に鯨岡峻先生(京都大学名誉教授)に「関係の中で人は生きる－新保育論のために－」をご講演いただきました。また、午後のプログラムでは、鈴木雅夫先生(名古屋市科学館)・吉田とき枝先生(同朋大学)に、「名古屋市科学館を楽しもう」をご講演頂きました。大会には、約500名の先生が参加されました。

- 中部地区幼児教育研究会

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部
〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 9

# 「脳のはたらき」を推定する技術の開発

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | さまざまな技術的な発展により、ヒトや実験動物の行動や脳活動のデータを精度良く測定することが可能になってきています。しかし、測定された行動や脳活動のデータから「脳のはたらき」を適切に推定する技術はほとんど存在していません。私たちは、これまでの基礎生命科学研究で培った経験を元にして、脳のはたらきを適切に理解するための人工知能技術などの開発を行っています。 |
| 活動の時期 | 2019年6月（論文発表）<br>2020年10月（論文発表）<br>2021年3月（論文発表）<br>2021年9月（論文発表） |
| 関連URL | 研究室WEBサイト |
| | 動物行動の人工知能解析に関する異分野融合研究に関して；2021年8月17日公開 |
| | Wen et al., eLife 2021に関して；2021年6月30日掲載 |
| | 動物行動の人工知能解析に関する異分野融合研究に関して；2021年12月24日に公開 |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/kokimura/ |
| 関連する論文 | Maekawa T, Kimura KD. （他16名）(2020) Nat Commun, 11: 5316.<br>Wen C, Kimura KD. （他12名）(2021) eLife, 10: e59187.<br>Maekawa T, Kimura KD. （他6名）(2021) Nat Commun, 12: 5519. |
| 期待される効果、今後の展望 | 私たちの研究室の主な研究対象は「線虫」ですが、シンプルで解析が容易な線虫を研究して技術開発を行えば、それが高等動物やヒトの生命機能の理解につながることが分かってきました。行動や脳活動の測定データから得られた知識と、脳機能障害や薬理効果に関する基礎生物学的な知見を独自の方法で組み合せることで「脳のはたらき」が理解できるようになると考えています。このように、他の研究者の方々とは全く違った角度から、社会に貢献していく所存です。 |
| 所属 | 理学研究科 生命情報系 |
| 氏名 | 木村 幸太郎 |
| 専門分野 | 神経科学、分子遺伝学、光生理学（イメージング） |

# 2019年度 大学丸ごと研究室体験　『市立大学・市立高校 高大連携講座』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度 から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。<br>この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・ 理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。 |
| 活動の時期 | 2019年7月～8月 |
| 関連URL | 2019年度 講座一覧 |

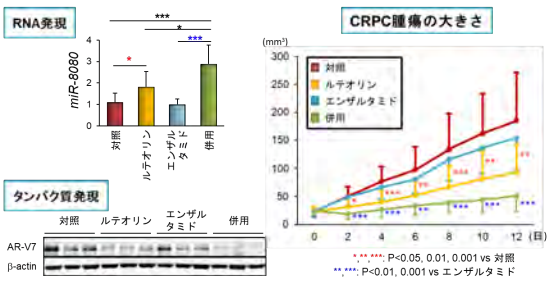
# 2019年度 名古屋市立大学高大連携授業

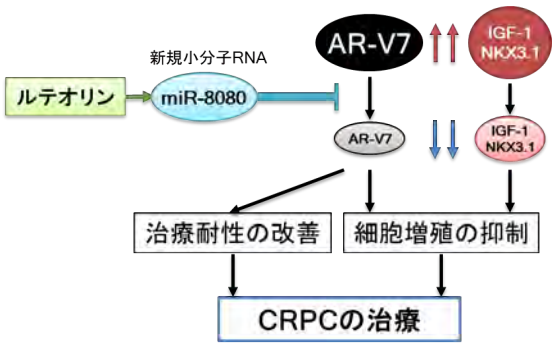
| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、高校生が本学学生と一緒に大学の通常の授業を履修できる「高大連携授業」を開講しています。<br>「高大連携授業」は、意欲のある高校生に対し、多様な「学び」の機会を提供し、本学の教育研究に触れ、理解と関心を深めていただくことを目的としています。科目等履修生としてこの科目を受講し、試験に合格した場合、大学の単位を修得することができます。<br>例年、全学部の大学1年生を対象とした教養教育のうち、2科目を開講しています。<br><br>【2019年度開講科目】<br>■バイオサイエンス入門：総合生命理学部　湯川泰教授、木村幸太郎教授、田上英明准教授<br>■討論の中で問題を発見する哲学：人文社会学部　別所良美教授 |
| 活動の時期 | 2019年度後期（9月～1月） |
| 関連URL | 2019年度 科目一覧 |

# 去勢抵抗性前立腺癌の治療

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 前立腺癌にはアンドロゲンを遮断するホルモン療法が効果的ですが、一部は治療に耐性を示す、悪性度が高い去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)に進行します。本研究では、フラボノイドの一種であるルテオリンがmiR-8080を誘導し、CRPCの治療耐性と関連するandrogen receptor (AR)のスプライスバリアントAR-V7を抑制することでCRPCの増殖や治療耐性を抑制することを解明しました。ルテオリンやmiR-8080はCRPCの治療に役立つ可能性があります。 |
| 活動の時期 | 2019年12月6日　プレスリリース |
| 関連URL | https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/media/20191206.pdf |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/ayaito |
| 関連する論文 | ① Naiki-Ito A et al.,Recruitment of miR-8080 byluteolin inhibits androgen receptor splice variant 7 expression in castration-resistant prostate cancer. Carcinogenesis. 2020, 41:1145-1157.<br>② Naiki T, Naiki-Ito A, et al.,GPX2 overexpression is involved in cell proliferation and prognosis of castration-resistant prostate cancer.<br>Carcinogenesis. 2014, 35:1962-7. |
| 関連する特許 | 特開2018-177658 (P2018-177658A)<br>発明の名称：去勢抵抗性前立腺癌の治療<br>発明者：内木綾、高橋智 |
| 期待される効果、今後の展望 | ルテオリンは、正常ARを抑制するmiRNAsを多く誘導することがわかっており、miR-8080と組み合わせたCPRCの治療法開発を目指します。CPRCの治療耐性を改善しうる分子標的と考えられます。薬剤を癌細胞に効率的に輸送するためのドラッグデリバリーシステムを導入したいと考えています。またルテオリンは、正常ARを抑制するmiRNAsを多く誘導することがわかっており、miR-8080と組み合わせたCPRCの治療法開発を目指します。 |
| 所属 | 医学研究科　実験病態病理学分野 |
| 氏名 | 内木 綾 |
| 専門分野 | 基礎医学、実験病理学 |

## 本研究から推測されるmiR-8080によるCRPC抑制機序



# 名古屋駅西地区のエリアリノベーション戦略の構築ーエキニシノミライに向けて

| 担当者 | 林 浩一郎:人間文化研究科(現代社会学科)、准教授、(専門分野)地域社会学 |
|---|---|

リニア中央新幹線開業に向け、再開発が進む名古屋駅西地区。その激変のなかで、草の根から地域文化を生み出すため、まちの皆さまとエリアリノベーション戦略を構想・実践してきました。

2017、2018年には、リノベーションまちづくりの先駆・清水義次氏、岡崎市のQURUWA戦略に取り組まれている山田高広氏、名古屋市住宅都市局の鶴田法仁氏、名古屋駅太閤通口まちづくり協議会の田中和生氏、「駅西あさごはん」という社会実験を行った大学生と、駅西リノベーション戦略を議論しました。

令和時代が幕を開けた2019年5月1日、名古屋市市民経済局「商店街商業機能再生モデル事業」を活用し、名古屋駅西銀座通商店街の空き店舗を生まれ変わらせた「喫茶モーニング」がオープンしました。このコミュニティ・ハブは、多様性と持続可能性をテーマとする市野将行氏と、ひきこもり状態にある方々を支援する「オレンジの会」が共同して生み出しました。その取り組みを紹介する「エキニシノミライ」では、設計を担当した栗本真壱氏、イベントを企画する大野嵩明氏、駅西でデザイン業を営む堀江浩彰氏、駅西文化を守り、革新する野田清太郎氏、駅西を調査する本学学生と、駅西カルチャーのミライを展望しました。

大規模再開発が続く名古屋駅の東側とは違う駅西の文化的アインデンティティを残しつつ、持続可能な発展をとげるためには、ローカルな資本が独自の経営戦略を立てていく必要があります。リノベーションまちづくりは、「草の根の私たちに、ここで稼がせろ!」という地域固有の内発的発展戦略となりうるものです。

- https://ncu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1761

  エキニシノミライ （PDF ファイル 4.53MB）

駅西に生まれた「喫茶モーニング」

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

# Goal 10

# 2019年度 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える活動

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」研究を教育や活動とリンクさせながら継続しています。<br>研究成果は学術発表するとともに、名古屋国際センターとの共催によるオープンフォーラムの開催や、前年度の活動をまとめた報告書の発行を通して、関係者にフィードバックしています。<br>また、フィリピンルーツの子どもたちのためのインフォーマルスクールでの健診と健康教育を毎年看護学部生とともに実施しています。 |
| 活動の時期 | 【論文発表】2019年9月<br>【フォーラム開催】2019年2月23日（2018年度実績）<br>【フィリピン子ども学校での健診】2019年2月7日（2018年度実績）、2020年2月20日 |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| | 調査結果パンフレット（2020年6月） |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - Asako Yoshino, Reginald B Salonga, Michiyo Higuchi. Associations between social support and access to healthcare among Filipino women living in Japan. Nagoya J Med Sci. 2021: 83; 551-565.<br>- Michiyo Higuchi, Maki Endo, Asako Yoshino. Factors associated with access to health care among foreign residents living in Aichi Prefecture, Japan: secondary data analysis. Int J Equity Health. 2021; 20(1): 135.<br>- 服部舞, 西村知亜紀, 樋口倫代. 愛知県54市町村の公式ウェブサイトによる外国人住民向け医療情報の提供状況. 国際保健医療. 2019; 34; 185-194. |
| 期待される効果、今後の展望 | NGO、フィリピン人、ベトナム人のコミュニティ、日本語学校、行政などにご協力いただき、さまざまな角度から外国人の保健医療へのアクセスの状況や関連要因を探り、学生や仕事をしていない人がリスクグループであること、ソーシャル・サポートが関連要因であることなどがわかってきました。<br>対象地域を拡大し、サポートになる情報はどのようなものかを調べる研究に発展させています。また、健診・健康教育の開催場所を増やしていく予定です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口 倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

名古屋国際センターでのオープンフォーラム

# ダイバーシティ宣言・行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。 |
| 活動の時期 | 【ダイバーシティ宣言】2019年2月<br>【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで |
| 関連URL | ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制 |

# 看護学生を対象とした「やさしい日本語」の教育

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 保健医療の現場では、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションがますます必要となっています。通訳の依頼や自動翻訳機の利用とともに、共通語としての日本語が注目されています。<br>そのような中、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションについて看護学生らが考えること、外国人にもわかりやすい日本語についての看護学生らの知識、スキルを調べています。<br>さらに「やさしい日本語」についての教育を行い、その効果を検証しています。<br>既存のガイドラインや手引を活用しながら、効果的な講義・演習方法を探っています。 |
| 活動の時期 | 2019年9月17日：日本語を母語としない人びととの日本語によるコミュニケーションについての予備調査<br>2020年8月14日：「やさしい日本語」ワークショップ<br>2021年11月19日：「やさしい日本語」講義（今後毎年継続） |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - 松浦未来, 荒川若菜, 服部記奈, 樋口倫代. 日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識:予備調査と試験的介入. 国際保健医療. 2021; 36; in print. |
| 期待される効果、今後の展望 | 予備調査では、看護学部4年生らは「やさしい日本語」に特化した知識は多く持ち合わせていませんでしたが、日本語を母語としない人びととコニュニケーションするスキルを一定程度有していました。<br>そこで、現場でも有用となるたしかな知識とスキルが身につくことを目指し、現在は2年生の必須講義の1コマに「やさしい日本語」の講義・演習を取り入れています。<br>また受講学生の同意を得て、効果をフォローする研究を実施中です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

# 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。 |
| 活動の時期 | 2013年以降 |
| 関連URL | 男女共同参画奨励賞 |

# 名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。<br><br>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。 |
| 活動の時期 | 【男女共同参画宣言】2012年3月<br><br>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長） |
| 関連URL | 男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション |

# Goal 11

# 2019年度 愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える活動

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 「愛知県で生活する外国人の保健医療アクセスを考える」研究を教育や活動とリンクさせながら継続しています。<br>研究成果は学術発表するとともに、名古屋国際センターとの共催によるオープンフォーラムの開催や、前年度の活動をまとめた報告書の発行を通して、関係者にフィードバックしています。<br>また、フィリピンルーツの子どもたちのためのインフォーマルスクールでの健診と健康教育を毎年看護学部生とともに実施しています。 |
| 活動の時期 | 【論文発表】2019年9月<br>【フォーラム開催】2019年2月23日（2018年度実績）<br>【フィリピン子ども学校での健診】2019年2月7日（2018年度実績）、2020年2月20日 |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| | 調査結果パンフレット（2020年6月） |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - Asako Yoshino, Reginald B Salonga, Michiyo Higuchi. Associations between social support and access to healthcare among Filipino women living in Japan. Nagoya J Med Sci. 2021: 83; 551-565.<br>- Michiyo Higuchi, Maki Endo, Asako Yoshino. Factors associated with access to health care among foreign residents living in Aichi Prefecture, Japan: secondary data analysis. Int J Equity Health. 2021; 20(1): 135.<br>- 服部舞, 西村知亜紀, 樋口倫代. 愛知県54市町村の公式ウェブサイトによる外国人住民向け医療情報の提供状況. 国際保健医療. 2019; 34; 185-194. |
| 期待される効果、今後の展望 | NGO、フィリピン人、ベトナム人のコミュニティ、日本語学校、行政などにご協力いただき、さまざまな角度から外国人の保健医療へのアクセスの状況や関連要因を探り、学生や仕事をしていない人がリスクグループであること、ソーシャル・サポートが関連要因であることなどがわかってきました。<br>対象地域を拡大し、サポートになる情報はどのようなものかを調べる研究に発展させています。また、健診・健康教育の開催場所を増やしていく予定です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口 倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

名古屋国際センターでのオープンフォーラム

# 2019年度 名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画 『NCU グレイド・スキップ・チャレンジ 』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2019年度から「NCU グレイド・スキップ・チャレンジ」を開催しております。<br>これは、市立高校の生徒が、主に夏季休業期間の4～5日間、高校から大学に飛び級（Grade Skip）して、本学が実施する講座に参加し、大学水準の調査・研究活動を体験する企画です。高校教員にも参加いただいています。<br>2019年度に人文社会学部からスタートしました。 |
| 活動の時期 | 2019年8月 |
| 関連URL | 2019年度開講講座一覧 |

# 2019年度 名古屋市立大学高大連携授業

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、高校生が本学学生と一緒に大学の通常の授業を履修できる「高大連携授業」を開講しています。<br>「高大連携授業」は、意欲のある高校生に対し、多様な「学び」の機会を提供し、本学の教育研究に触れ、理解と関心を深めていただくことを目的としています。科目等履修生としてこの科目を受講し、試験に合格した場合、大学の単位を修得することができます。<br>例年、全学部の大学1年生を対象とした教養教育のうち、2科目を開講しています。<br><br>【2019年度開講科目】<br>■バイオサイエンス入門：総合生命理学部　湯川泰教授、木村幸太郎教授、田上英明准教授<br>■討論の中で問題を発見する哲学：人文社会学部　別所良美教授 |
| 活動の時期 | 2019年度後期（9月～1月） |
| 関連URL | 2019年度 科目一覧 |

# NCU アジア拠点校シンポジウム2019 ～アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題～

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2019年 12 月 5 日（木）から 7 日（土）の 3 日間、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催した。大学間交流協定校の中でも特に強い協力体制にある海外拠点校 4 校（トルコ：ハジェテペ大学、韓国：ハルリム大学、フィリピン：サント・トーマス大学、タイ：プリンスオブソンクラー大学）から研究者を招へいし、「アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題」をテーマに講演や意見交換などを行う「NCUアジア拠点校シンポジウム2019」を開催しました。当日は、450 人を超える来場がありました。<br><br>また、期間中の12月7日には、サテライト講演会として、「地球環境変化の中で健康をまもる-SDGsへの科学的貢献を通じて」というテーマで、フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長の春日文子先生が講演を行いました。 |
| 活動の時期 | 2019年12月 |
| 関連URL | プレスリリース |

シンポジウムの様子１

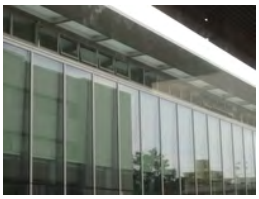
シンポジウムの様子２

# 看護学生を対象とした「やさしい日本語」の教育

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 保健医療の現場では、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションがますます必要となっています。通訳の依頼や自動翻訳機の利用とともに、共通語としての日本語が注目されています。<br>そのような中、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションについて看護学生らが考えること、外国人にもわかりやすい日本語についての看護学生らの知識、スキルを調べています。<br>さらに「やさしい日本語」についての教育を行い、その効果を検証しています。<br>既存のガイドラインや手引を活用しながら、効果的な講義・演習方法を探っています。 |
| 活動の時期 | 2019年9月17日：日本語を母語としない人びととの日本語によるコミュニケーションについての予備調査<br>2020年8月14日：「やさしい日本語」ワークショップ<br>2021年11月19日：「やさしい日本語」講義（今後毎年継続） |
| 関連URL | 名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - 松浦未来, 荒川若菜, 服部記奈, 樋口倫代. 日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識:予備調査と試験的介入. 国際保健医療. 2021; 36; in print. |
| 期待される効果、今後の展望 | 予備調査では、看護学部4年生らは「やさしい日本語」に特化した知識は多く持ち合わせていませんでしたが、日本語を母語としない人びととコニュニケーションするスキルを一定程度有していました。<br>そこで、現場でも有用となるたしかな知識とスキルが身につくことを目指し、現在は2年生の必須講義の1コマに「やさしい日本語」の講義・演習を取り入れています。<br>また受講学生の同意を得て、効果をフォローする研究を実施中です。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

# 田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 田辺通キャンパスでは、2007年度－2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。<br><br>■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。<br>■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。<br>■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。<br><br>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。 |
| 活動の時期 | 2007年度－2009年度以降 |
| 関連URL | 環境への主な取組み |


自然換気システム

室外のクールチューブ(吸込み)

室内のクールチューブ(噴出し)

# 名古屋市主催の結核相談会への医学部薬学部看護学部生の参加

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 医学部薬学部看護学部が合同で学習する地域参加型学習を1年生に行っています。<br>そのチーム活動・実習の一環として名古屋市感染症対策室が実施する名古屋市中区での起居者を対象とした結核健診、相談会に参加させていただきました。医学部薬学部看護学部の学生は、来場者の受付、誘導、声かけなどを行い、通常の公衆衛生対策が届きにくい人へのアプローチ、クライアントへの対応について現場で学びを深めました。 |
| 活動の時期 | 2019年9月 |
| 期待される効果、今後の展望 | 日本は結核の感染者数は昔よりは減ったものの、18,000人近くの感染者が毎年報告されています。外国籍の方、ホームレスの方など通常の公衆衛生対策が届きにくい集団へのアプローチが重要となっています。実際のプログラムに参画することで得た学びを将来の医療保健従事者として活躍した際にも活用することが期待できます。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 金子 典代 |

# 名古屋駅西地区のエリアリノベーション戦略の構築ーエキニシノミライに向けて

| 担当者 | 林 浩一郎:人間文化研究科(現代社会学科)、准教授、(専門分野)地域社会学 |
|---|---|

リニア中央新幹線開業に向け、再開発が進む名古屋駅西地区。その激変のなかで、草の根から地域文化を生み出すため、まちの皆さまとエリアリノベーション戦略を構想・実践してきました。

2017、2018年には、リノベーションまちづくりの先駆・清水義次氏、岡崎市のQURUWA戦略に取り組まれている山田高広氏、名古屋市住宅都市局の鶴田法仁氏、名古屋駅太閤通口まちづくり協議会の田中和生氏、「駅西あさごはん」という社会実験を行った大学生と、駅西リノベーション戦略を議論しました。

令和時代が幕を開けた2019年5月1日、名古屋市市民経済局「商店街商業機能再生モデル事業」を活用し、名古屋駅西銀座通商店街の空き店舗を生まれ変わらせた「喫茶モーニング」がオープンしました。このコミュニティ・ハブは、多様性と持続可能性をテーマとする市野将行氏と、ひきこもり状態にある方々を支援する「オレンジの会」が共同して生み出しました。その取り組みを紹介する「エキニシノミライ」では、設計を担当した栗本真壱氏、イベントを企画する大野嵩明氏、駅西でデザイン業を営む堀江浩彰氏、駅西文化を守り、革新する野田清太郎氏、駅西を調査する本学学生と、駅西カルチャーのミライを展望しました。

大規模再開発が続く名古屋駅の東側とは違う駅西の文化的アインデンティティを残しつつ、持続可能な発展をとげるためには、ローカルな資本が独自の経営戦略を立てていく必要があります。リノベーションまちづくりは、「草の根の私たちに、ここで稼がせろ!」という地域固有の内発的発展戦略となりうるものです。

- https://ncu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1761

  エキニシノミライ （PDF ファイル 4.53MB）

駅西に生まれた「喫茶モーニング」

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

# 学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン

| 担当者 | 谷口由希子:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)社会福祉学 |
|---|---|

本プロジェクトは、名古屋市立大学と瑞穂区役所が締結した連携協力協定に基づき、子育て中の保護者や子どもたちにオレンジリボン(子ども虐待防止のシンボル)について理解を深めていただくことを目的として、子育てサロン「さくらひろば」(瑞穂区役所2階さくらルーム内)で子ども虐待防止に向けた広報を実施しているものです。

学生が子ども虐待や子育て支援について学んできたことをいかし、子育てにやさしいまちを目指す活動の一つとして、人文社会学部心理教育学科の谷口ゼミの学生10名、教員1名(谷口准教授)、そして瑞穂区役所職員3名を中心に企画・運営を行ったものです。

2019年度は、12月4日(水)に開催し、学生が演出を考えた歌とダンス「オレンジサンタクロース」の上演やオレンジリボンの紹介を行いました。当日は、地域で子育てをしている保護者及び1～3歳の子どもたち約40組が参加しました。

学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン （PDF ファイル 0.25MB）

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

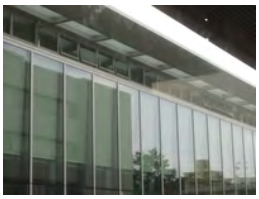
# Goal 12

# 2019年度 名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画 『NCU グレイド・スキップ・チャレンジ』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2019年度から「NCU グレイド・スキップ・チャレンジ」を開催しております。<br>これは、市立高校の生徒が、主に夏季休業期間の4〜5日間、高校から大学に飛び級（Grade Skip）して、本学が実施する講座に参加し、大学水準の調査・研究活動を体験する企画です。高校教員にも参加いただいています。<br>2019年度に人文社会学部からスタートしました。 |
| 活動の時期 | 2019年8月 |
| 関連URL | 2019年度開講講座一覧 |

# 田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 田辺通キャンパスでは、2007年度－2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。<br><br>■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。<br>■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。<br>■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。<br><br>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。 |
| 活動の時期 | 2007年度－2009年度以降 |
| 関連URL | 環境への主な取組み |


自然換気システム

室外のクールチューブ(吸込み)

室内のクールチューブ(噴出し)

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2019の報告

| 担当者 | 曽我幸代:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)ESD |
|---|---|

2019年12月7日(土)に名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂および看護学部棟3階を会場として、NCUサステナビリティ・シンポジウム2019「SDGsを通してみる名古屋:「気候変動」×「生物多様性」への私たちの取り組み」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部後援)を開催しました。本シンポジウムは、名古屋市立大学開学70周年記念事業プレイベントであり、かつNCUアジア拠点校シンポジウム2019関連イベントとしても位置づけられました。

本学が位置する名古屋市は、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表した。その後の環境政策は国際社会に称賛されるべく、特筆に値する取り組みでした。最終処分場建設候補地であった藤前干潟の建設計画を断念し、20世紀中に20%、20万トンというごみ減量を成功させました。2010年には市内でCOP10 (The tenth meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約第10回締約国会議)、2014年にはESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議を開催しました。こうした歴史を踏まえて、今年度、名古屋市および愛知県はともに、内閣府の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の「SDGs未来都市」に採択されました。

しかしながら、生物多様性の損失に関する地球環境は、国際社会で手遅れとされるほど深刻化しています。実際、名古屋市においてもCOP10以降の取り組みの報告を一般市民が聴く機会はほとんどありません。昨年度に公開された次期総合計画案には、都市像の一つに「快適な都市環境と自然が調和したまち」と挙げられています。気候変動の影響で地球環境の変化も問題視される社会において、名古屋市はどのように生物多様性を保全し、かつ人々が快適に暮らすことができる都市環境をつくっていくことができるのか、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を通して名古屋市の社会づくりを見直す時機にあるといえます。

そこで本シンポジウムでは名古屋市にある課題を、とくにSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)目標13「気候変動に具体的な対策を」と目標14「海の豊かさを守ろう」および目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる生物多様性の損失という問題に対して、どのようにアプローチするのかを日頃の学びや研究をもとに子ども・若者らが報告し合いました。その後、都市環境づくりの関わり方としてどのように取り組むのかを考える、参加者による協働ワークショップを行いました。また引率する教員や参加する大人はこれらの問題に対して、どのように考え、取り組むことができるのかを考え、子どもと大人それぞれの意見を共有し合う場を設けました。教員においては、授業実践などでの問題やアプローチの共有の場となり、教員らの学び合うネットワーク構築につながることが期待されました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

- イベント開催報告

  シンポジウムのチラシ （PDF ファイル 0.95MB）

# Goal 13

# NCU アジア拠点校シンポジウム2019 ～アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題～

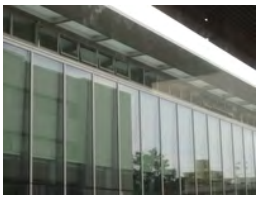
| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2019年 12 月 5 日（木）から 7 日（土）の 3 日間、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催した。大学間交流協定校の中でも特に強い協力体制にある海外拠点校 4 校（トルコ：ハジェテペ大学、韓国：ハルリム大学、フィリピン：サント・トーマス大学、タイ：プリンスオブソンクラー大学）から研究者を招へいし、「アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題」をテーマに講演や意見交換などを行う「NCUアジア拠点校シンポジウム2019」を開催しました。当日は、450 人を超える来場がありました。<br><br>また、期間中の12月7日には、サテライト講演会として、「地球環境変化の中で健康をまもる-SDGsへの科学的貢献を通じて」というテーマで、フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長の春日文子先生が講演を行いました。 |
| 活動の時期 | 2019年12月 |
| 関連URL | プレスリリース |

シンポジウムの様子１

シンポジウムの様子２

# 田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 田辺通キャンパスでは、2007年度－2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。<br><br>■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。<br>■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。<br>■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。<br><br>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。 |
| 活動の時期 | 2007年度－2009年度以降 |
| 関連URL | 環境への主な取組み |


自然換気システム

室外のクールチューブ(吸込み)

室内のクールチューブ(噴出し)

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2019の報告

| 担当者 | 曽我幸代:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)ESD |
|---|---|

2019年12月7日(土)に名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂および看護学部棟3階を会場として、NCUサステナビリティ・シンポジウム2019「SDGsを通してみる名古屋:「気候変動」×「生物多様性」への私たちの取り組み」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部後援)を開催しました。本シンポジウムは、名古屋市立大学開学70周年記念事業プレイベントであり、かつNCUアジア拠点校シンポジウム2019関連イベントとしても位置づけられました。

本学が位置する名古屋市は、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表した。その後の環境政策は国際社会に称賛されるべく、特筆に値する取り組みでした。最終処分場建設候補地であった藤前干潟の建設計画を断念し、20世紀中に20%、20万トンというごみ減量を成功させました。2010年には市内でCOP10 (The tenth meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約第10回締約国会議)、2014年にはESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議を開催しました。こうした歴史を踏まえて、今年度、名古屋市および愛知県はともに、内閣府の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の「SDGs未来都市」に採択されました。

しかしながら、生物多様性の損失に関する地球環境は、国際社会で手遅れとされるほど深刻化しています。実際、名古屋市においてもCOP10以降の取り組みの報告を一般市民が聴く機会はほとんどありません。昨年度に公開された次期総合計画案には、都市像の一つに「快適な都市環境と自然が調和したまち」と挙げられています。気候変動の影響で地球環境の変化も問題視される社会において、名古屋市はどのように生物多様性を保全し、かつ人々が快適に暮らすことができる都市環境をつくっていくことができるのか、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を通して名古屋市の社会づくりを見直す時機にあるといえます。

そこで本シンポジウムでは名古屋市にある課題を、とくにSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)目標13「気候変動に具体的な対策を」と目標14「海の豊かさを守ろう」および目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる生物多様性の損失という問題に対して、どのようにアプローチするのかを日頃の学びや研究をもとに子ども・若者らが報告し合いました。その後、都市環境づくりの関わり方としてどのように取り組むのかを考える、参加者による協働ワークショップを行いました。また引率する教員や参加する大人はこれらの問題に対して、どのように考え、取り組むことができるのかを考え、子どもと大人それぞれの意見を共有し合う場を設けました。教員においては、授業実践などでの問題やアプローチの共有の場となり、教員らの学び合うネットワーク構築につながることが期待されました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

- イベント開催報告

  シンポジウムのチラシ （PDF ファイル 0.95MB）

# Goal 14

# 2019年度 名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画 『NCU グレイド・スキップ・チャレンジ』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2019年度から「NCU グレイド・スキップ・チャレンジ」を開催しております。<br>これは、市立高校の生徒が、主に夏季休業期間の4〜5日間、高校から大学に飛び級（Grade Skip）して、本学が実施する講座に参加し、大学水準の調査・研究活動を体験する企画です。高校教員にも参加いただいています。<br>2019年度に人文社会学部からスタートしました。 |
| 活動の時期 | 2019年8月 |
| 関連URL | 2019年度開講講座一覧 |

# 動物園飼育下の大型類人猿人工繁殖と遠隔診療ネットワークの構築

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | オランウータンメス個体の生理活性物質の月経周期における変化を排卵の予知に応用する可能性を検討し、ヒトの精子調整法をオランウータンの精液で検討しました。その結果、千葉動物公園に2回のオランウータンの人工授精を遂行しました。<br>ヒトにおける“人間ドック”に相当する健康診断や診療を動物園飼育下の大型類人猿に応用しました。インターネットを利用した遠隔診療システムを構築し、迅速な診断と早期治療を可能にしました。 |
| 活動の時期 | 論文発表：2019年、2020年、2021年 |
| 関連URL | 千葉市動物公園WEBサイト |
| | 京都大学霊長類研究所 年報 |
| | ボルネオオランウータンとチンパンジーの精液液状部および凝固部における精子運動性を比較 |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/yasuhikoozaki |
| 関連する論文 | 1, Urinary sex steroid hormone and placental leucine Aminopeptidase concentration differences between live births and stillbirth of Bornean orangutans (Pongo pygmaeus), Kinoshita K, Sano Y, Takai A, Shimizu M, Kobayashi T, Ouchi A, Kuze N, InoueMurayama M, Idani G, Okamoto M, Ozaki Y. Journal of Medical Primatology, 46 (1), 3-8, 2017.<br><br>2, Seminal characteristics of great apes possessing seminal coagulum: Bornean orangutan (Pongo pygmaeus) and chimpanzee (Pan troglodytes), Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S. Scientific Reports, 2019.<br><br>3, Gynaecological diagnosis by ultrasound and the measurement of urinary sex steroid hormone in female orangutans (Pongo spp.), Kinoshita K, Nakamura T, Kimura K, Shimizu M, Kuze N, Ozaki Y., Vet Med Sci. 2020;00:1–5.<br><br>4, Comparative analysis of sperm motility in liquid and seminal coagulum portions between Bornean orangutan (Pongopygmaeus) and chimpanzee (Pan troglodytes). Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S.Primates. 2021 May;62(3):467-473. |
| 期待される効果、今後の展望 | 現在ヒトで行われている生殖医療、不妊治療や周産期医療を人工飼育下の類人猿繁殖計画に応用します。またヒトの健康診断システムや治療法を動物に適応させるという独創的な本研究は “人と動物と環境に優しい名古屋市立大学”として生物学、獣医学や環境学との異分野融合型研究を展開することが期待されます。数多くの貴重な動物の命の犠牲のもとに発展して来たヒトの医療を動物たちに還元することが本研究のメインコンセプトです。 |
| 所属 | 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター産婦人科 |
| 氏名 | 尾崎 康彦 |
| 専門分野 | 産婦人科学、生殖免疫学、周産期医学 |

ニシローランドゴリラの婦人科検査（経腟超音波･頸部細胞診）
2019年 恩賜上野動物園

ニシローランドゴリラの婦人科検査（CT読影）
2019年 恩賜上野動物園

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2019の報告

| 担当者 | 曽我幸代:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)ESD |
|---|---|

2019年12月7日(土)に名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂および看護学部棟3階を会場として、NCUサステナビリティ・シンポジウム2019「SDGsを通してみる名古屋:「気候変動」×「生物多様性」への私たちの取り組み」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部後援)を開催しました。本シンポジウムは、名古屋市立大学開学70周年記念事業プレイベントであり、かつNCUアジア拠点校シンポジウム2019関連イベントとしても位置づけられました。

本学が位置する名古屋市は、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表した。その後の環境政策は国際社会に称賛されるべく、特筆に値する取り組みでした。最終処分場建設候補地であった藤前干潟の建設計画を断念し、20世紀中に20%、20万トンというごみ減量を成功させました。2010年には市内でCOP10 (The tenth meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約第10回締約国会議)、2014年にはESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議を開催しました。こうした歴史を踏まえて、今年度、名古屋市および愛知県はともに、内閣府の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の「SDGs未来都市」に採択されました。

しかしながら、生物多様性の損失に関する地球環境は、国際社会で手遅れとされるほど深刻化しています。実際、名古屋市においてもCOP10以降の取り組みの報告を一般市民が聴く機会はほとんどありません。昨年度に公開された次期総合計画案には、都市像の一つに「快適な都市環境と自然が調和したまち」と挙げられています。気候変動の影響で地球環境の変化も問題視される社会において、名古屋市はどのように生物多様性を保全し、かつ人々が快適に暮らすことができる都市環境をつくっていくことができるのか、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を通して名古屋市の社会づくりを見直す時機にあるといえます。

そこで本シンポジウムでは名古屋市にある課題を、とくにSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)目標13「気候変動に具体的な対策を」と目標14「海の豊かさを守ろう」および目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる生物多様性の損失という問題に対して、どのようにアプローチするのかを日頃の学びや研究をもとに子ども・若者らが報告し合いました。その後、都市環境づくりの関わり方としてどのように取り組むのかを考える、参加者による協働ワークショップを行いました。また引率する教員や参加する大人はこれらの問題に対して、どのように考え、取り組むことができるのかを考え、子どもと大人それぞれの意見を共有し合う場を設けました。教員においては、授業実践などでの問題やアプローチの共有の場となり、教員らの学び合うネットワーク構築につながることが期待されました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

- イベント開催報告

  シンポジウムのチラシ （PDF ファイル 0.95MB）

# Goal 15

# 2019年度 大学丸ごと研究室体験　『市立大学・市立高校 高大連携講座』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度 から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。<br>この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・ 理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。 |
| 活動の時期 | 2019年7月～8月 |
| 関連URL | 2019年度 講座一覧 |

# NCU アジア拠点校シンポジウム2019 ～アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題～

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2019年 12 月 5 日（木）から 7 日（土）の 3 日間、NCU アジア拠点校シンポジウムを開催した。大学間交流協定校の中でも特に強い協力体制にある海外拠点校 4 校（トルコ：ハジェテペ大学、韓国：ハルリム大学、フィリピン：サント・トーマス大学、タイ：プリンスオブソンクラー大学）から研究者を招へいし、「アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題」をテーマに講演や意見交換などを行う「NCUアジア拠点校シンポジウム2019」を開催しました。当日は、450 人を超える来場がありました。<br><br>また、期間中の12月7日には、サテライト講演会として、「地球環境変化の中で健康をまもる-SDGsへの科学的貢献を通じて」というテーマで、フューチャー・アース国際本部事務局 日本ハブ事務局長の春日文子先生が講演を行いました。 |
| 活動の時期 | 2019年12月 |
| 関連URL | プレスリリース |

シンポジウムの様子１

シンポジウムの様子２

# 動物園飼育下の大型類人猿人工繁殖と遠隔診療ネットワークの構築

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | オランウータンメス個体の生理活性物質の月経周期における変化を排卵の予知に応用する可能性を検討し、ヒトの精子調整法をオランウータンの精液で検討しました。その結果、千葉動物公園に2回のオランウータンの人工授精を遂行しました。<br>ヒトにおける“人間ドック”に相当する健康診断や診療を動物園飼育下の大型類人猿に応用しました。インターネットを利用した遠隔診療システムを構築し、迅速な診断と早期治療を可能にしました。 |
| 活動の時期 | 論文発表：2019年、2020年、2021年 |
| 関連URL | 千葉市動物公園WEBサイト |
| | 京都大学霊長類研究所 年報 |
| | ボルネオオランウータンとチンパンジーの精液液状部および凝固部における精子運動性を比較 |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/yasuhikoozaki |
| 関連する論文 | 1, Urinary sex steroid hormone and placental leucine Aminopeptidase concentration differences between live births and stillbirth of Bornean orangutans (Pongo pygmaeus), Kinoshita K, Sano Y, Takai A, Shimizu M, Kobayashi T, Ouchi A, Kuze N, InoueMurayama M, Idani G, Okamoto M, Ozaki Y. Journal of Medical Primatology, 46 (1), 3-8, 2017.<br><br>2, Seminal characteristics of great apes possessing seminal coagulum: Bornean orangutan (Pongo pygmaeus) and chimpanzee (Pan troglodytes), Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S. Scientific Reports, 2019.<br><br>3, Gynaecological diagnosis by ultrasound and the measurement of urinary sex steroid hormone in female orangutans (Pongo spp.), Kinoshita K, Nakamura T, Kimura K, Shimizu M, Kuze N, Ozaki Y., Vet Med Sci. 2020;00:1–5.<br><br>4, Comparative analysis of sperm motility in liquid and seminal coagulum portions between Bornean orangutan (Pongopygmaeus) and chimpanzee (Pan troglodytes). Kinoshita K, Indo Y, Tajima T, Kuze N, Miyakawa E, Kobayashi T, Nakamura T, Ogata M, Okumura F, Hayakawa T, Morimura N, Mori Y, Okamoto M, Ozaki Y, Hirata S.Primates. 2021 May;62(3):467-473. |
| 期待される効果、今後の展望 | 現在ヒトで行われている生殖医療、不妊治療や周産期医療を人工飼育下の類人猿繁殖計画に応用します。またヒトの健康診断システムや治療法を動物に適応させるという独創的な本研究は “人と動物と環境に優しい名古屋市立大学”として生物学、獣医学や環境学との異分野融合型研究を展開することが期待されます。数多くの貴重な動物の命の犠牲のもとに発展して来たヒトの医療を動物たちに還元することが本研究のメインコンセプトです。 |
| 所属 | 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター産婦人科 |
| 氏名 | 尾崎 康彦 |
| 専門分野 | 産婦人科学、生殖免疫学、周産期医学 |

ニシローランドゴリラの婦人科検査（経腟超音波･頸部細胞診）
2019年 恩賜上野動物園

ニシローランドゴリラの婦人科検査（CT読影）
2019年 恩賜上野動物園

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2019の報告

| 担当者 | 曽我幸代:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)ESD |
|---|---|

2019年12月7日(土)に名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂および看護学部棟3階を会場として、NCUサステナビリティ・シンポジウム2019「SDGsを通してみる名古屋:「気候変動」×「生物多様性」への私たちの取り組み」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部後援)を開催しました。本シンポジウムは、名古屋市立大学開学70周年記念事業プレイベントであり、かつNCUアジア拠点校シンポジウム2019関連イベントとしても位置づけられました。

本学が位置する名古屋市は、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表した。その後の環境政策は国際社会に称賛されるべく、特筆に値する取り組みでした。最終処分場建設候補地であった藤前干潟の建設計画を断念し、20世紀中に20%、20万トンというごみ減量を成功させました。2010年には市内でCOP10 (The tenth meeting of the Conference of the Parties to the Convention on Biological Diversity: 生物多様性条約第10回締約国会議)、2014年にはESD(Education for Sustainable Development)ユネスコ世界会議を開催しました。こうした歴史を踏まえて、今年度、名古屋市および愛知県はともに、内閣府の「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」の「SDGs未来都市」に採択されました。

しかしながら、生物多様性の損失に関する地球環境は、国際社会で手遅れとされるほど深刻化しています。実際、名古屋市においてもCOP10以降の取り組みの報告を一般市民が聴く機会はほとんどありません。昨年度に公開された次期総合計画案には、都市像の一つに「快適な都市環境と自然が調和したまち」と挙げられています。気候変動の影響で地球環境の変化も問題視される社会において、名古屋市はどのように生物多様性を保全し、かつ人々が快適に暮らすことができる都市環境をつくっていくことができるのか、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を通して名古屋市の社会づくりを見直す時機にあるといえます。

そこで本シンポジウムでは名古屋市にある課題を、とくにSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)目標13「気候変動に具体的な対策を」と目標14「海の豊かさを守ろう」および目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる生物多様性の損失という問題に対して、どのようにアプローチするのかを日頃の学びや研究をもとに子ども・若者らが報告し合いました。その後、都市環境づくりの関わり方としてどのように取り組むのかを考える、参加者による協働ワークショップを行いました。また引率する教員や参加する大人はこれらの問題に対して、どのように考え、取り組むことができるのかを考え、子どもと大人それぞれの意見を共有し合う場を設けました。教員においては、授業実践などでの問題やアプローチの共有の場となり、教員らの学び合うネットワーク構築につながることが期待されました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

- イベント開催報告

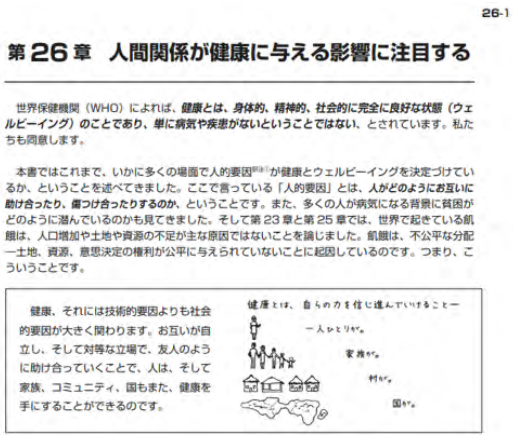
  シンポジウムのチラシ （PDF ファイル 0.95MB）

# Goal 16

# 保健NGOとの連携

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 一般社団法人Bridges in Public Health（BiPH）は、知づくり、場づくり、人づくりを通して、科学と社会、専門職と一般の人びと、地域と世界をつないでHealth for Allをめざすの NGOです。BiPHを設立し、代表をつとめています。<br>現在は、東ティモールでのJICA草の根技術協力事業の実施、コミュニティ活動のための書籍の翻訳、定期勉強会の開催などが主な活動です。<br>勉強会共催、インターン受け入れ、草の根技術協力事業のカウンターパートとの共同研究など、本学の教育、研究との連携を行っています。 |
| 活動の時期 | 継続中（2022年2月現在） |
| 関連URL | 一般社団法人Bridges in Public Health WEBサイト<br>一般社団法人Bridges in Public Health Facebookページ |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - Kyoko Sasaki. Associations between Infant and Young Child Feeding (IYCF) practice and attitudes toward intimate partner violence (IPV) in Timor-Leste. Nagoya: Nagoya City University Graduate School of Nursing (Master thesis); 2022. |
| 期待される効果、今後の展望 | JICA草の根技術協力プロジェクトでは、住民の健康ニーズを的確に把握できる人材の育成を実施中です。また、プロジェクトと橋渡しした大学院生の修士論文は、投稿準備中です。<br>Helping Health Workers Learnの翻訳は5月ころ発刊予定です。保健関係者だけではなく、コミュニティで活動している人びとに活用してもらえるようなしかけ作りにつなげていきます。<br>NGOの強みと大学の強みを相互に生かして、今後も学生の受け入れ、協働した活動、共同研究、共同研究の橋渡しなどで連携していきます。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口 倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

草の根技術協力プロジェクトのため予備調査



26-1

第26章　人間関係が健康に与える影響に注目する

世界保健機関（WHO）によれば、***健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態（ウェルビーイング）のことであり、単に病気や疾患がないということではない***、とされています。私たちも同意します。

本書ではこれまで、いかに多くの場面で人的要因[脚注1]が健康とウェルビーイングを決定づけているか、ということを述べてきました。ここで言っている「人的要因」とは、***人がどのようにお互いに助け合ったり、傷つけ合ったりするのか***、ということです。また、多くの人が病気になる背景に貧困がどのように潜んでいるのかも見てきました。そして第23章と第25章では、世界で起きている飢餓は、人口増加や土地や資源の不足が主な原因ではないことを論じました。飢餓は、不公平な分配—土地、資源、意思決定の権利が公平に与えられていないことに起因しているのです。つまり、こういうことです。

健康、それには技術的要因よりも社会的要因が大きく関わります。お互いが自立し、そして対等な立場で、友人のように助け合っていくことで、人は、そして家族、コミュニティ、国もまた、健康を手にすることができるのです。

健康とは、自らの力を信じ進んでいけること—
一人ひとりが。
家族が。
村が。
国が。

発刊予定の「Healping Health Workers Learn」日本語版（サンプル）

# 学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン

| 担当者 | 谷口由希子:人間文化研究科(心理教育学科)、准教授、(専門分野)社会福祉学 |
|---|---|

本プロジェクトは、名古屋市立大学と瑞穂区役所が締結した連携協力協定に基づき、子育て中の保護者や子どもたちにオレンジリボン(子ども虐待防止のシンボル)について理解を深めていただくことを目的として、子育てサロン「さくらひろば」(瑞穂区役所2階さくらルーム内)で子ども虐待防止に向けた広報を実施しているものです。

学生が子ども虐待や子育て支援について学んできたことをいかし、子育てにやさしいまちを目指す活動の一つとして、人文社会学部心理教育学科の谷口ゼミの学生10名、教員1名(谷口准教授)、そして瑞穂区役所職員3名を中心に企画・運営を行ったものです。

2019年度は、12月4日(水)に開催し、学生が演出を考えた歌とダンス「オレンジサンタクロース」の上演やオレンジリボンの紹介を行いました。当日は、地域で子育てをしている保護者及び1～3歳の子どもたち約40組が参加しました。

学生による子ども虐待防止に向けたキャンペーン （PDF ファイル 0.25MB）

PDFファイルをご覧になるためには、 AdobeReader® が必要です。パソコンにインストールされていない方は右のアイコンをクリックしてダウンロードしてください。

Get Adobe Acrobat Reader

関連記事一覧



名古屋市立大学大学院人間文化研究科・人文社会学部

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

# Goal 17

# 2019年度 大学丸ごと研究室体験　『市立大学・市立高校 高大連携講座』

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度 から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。<br>この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・ 理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。 |
| 活動の時期 | 2019年7月～8月 |
| 関連URL | 2019年度 講座一覧 |

# 2019年度 名古屋市立大学高大連携授業

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、高校生が本学学生と一緒に大学の通常の授業を履修できる「高大連携授業」を開講しています。<br>「高大連携授業」は、意欲のある高校生に対し、多様な「学び」の機会を提供し、本学の教育研究に触れ、理解と関心を深めていただくことを目的としています。科目等履修生としてこの科目を受講し、試験に合格した場合、大学の単位を修得することができます。<br>例年、全学部の大学1年生を対象とした教養教育のうち、2科目を開講しています。<br><br>【2019年度開講科目】<br>■バイオサイエンス入門：総合生命理学部　湯川泰教授、木村幸太郎教授、田上英明准教授<br>■討論の中で問題を発見する哲学：人文社会学部　別所良美教授 |
| 活動の時期 | 2019年度後期（9月～1月） |
| 関連URL | 2019年度 科目一覧 |

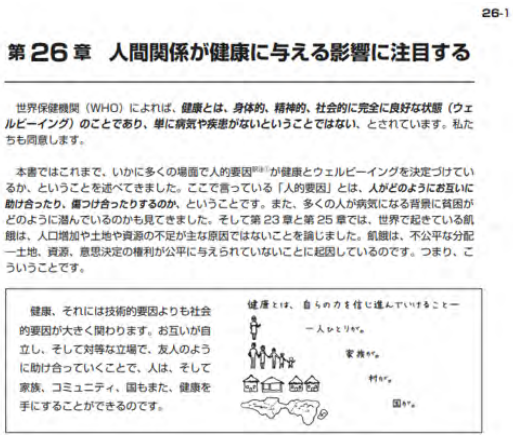
# ダイバーシティ宣言・行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。 |
| 活動の時期 | 【ダイバーシティ宣言】2019年2月<br>【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで |
| 関連URL | ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制 |

# 保健NGOとの連携

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 一般社団法人Bridges in Public Health（BiPH）は、知づくり、場づくり、人づくりを通して、科学と社会、専門職と一般の人びと、地域と世界をつないでHealth for Allをめざすの NGOです。BiPHを設立し、代表をつとめています。<br>現在は、東ティモールでのJICA草の根技術協力事業の実施、コミュニティ活動のための書籍の翻訳、定期勉強会の開催などが主な活動です。<br>勉強会共催、インターン受け入れ、草の根技術協力事業のカウンターパートとの共同研究など、本学の教育、研究との連携を行っています。 |
| 活動の時期 | 継続中（2022年2月現在） |
| 関連URL | 一般社団法人Bridges in Public Health WEBサイト<br>一般社団法人Bridges in Public Health Facebookページ |
| researchmap URL | https://researchmap.jp/read0145307 |
| 関連する論文 | - Kyoko Sasaki. Associations between Infant and Young Child Feeding (IYCF) practice and attitudes toward intimate partner violence (IPV) in Timor-Leste. Nagoya: Nagoya City University Graduate School of Nursing (Master thesis); 2022. |
| 期待される効果、今後の展望 | JICA草の根技術協力プロジェクトでは、住民の健康ニーズを的確に把握できる人材の育成を実施中です。また、プロジェクトと橋渡しした大学院生の修士論文は、投稿準備中です。<br>Helping Health Workers Learnの翻訳は5月ころ発刊予定です。保健関係者だけではなく、コミュニティで活動している人びとに活用してもらえるようなしかけ作りにつなげていきます。<br>NGOの強みと大学の強みを相互に生かして、今後も学生の受け入れ、協働した活動、共同研究、共同研究の橋渡しなどで連携していきます。 |
| 所属 | 看護学研究科 |
| 氏名 | 樋口 倫代 |
| 専門分野 | 公衆衛生 |

草の根技術協力プロジェクトのため予備調査



26-1

第26章　人間関係が健康に与える影響に注目する

世界保健機関（WHO）によれば、***健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態（ウェルビーイング）のことであり、単に病気や疾患がないということではない***、とされています。私たちも同意します。

本書ではこれまで、いかに多くの場面で人的要因[脚注1]が健康とウェルビーイングを決定づけているか、ということを述べてきました。ここで言っている「人的要因」とは、***人がどのようにお互いに助け合ったり、傷つけ合ったりするのか***、ということです。また、多くの人が病気になる背景に貧困がどのように潜んでいるのかも見てきました。そして第23章と第25章では、世界で起きている飢餓は、人口増加や土地や資源の不足が主な原因ではないことを論じました。飢餓は、不公平な分配—土地、資源、意思決定の権利が公平に与えられていないことに起因しているのです。つまり、こういうことです。

健康、それには技術的要因よりも社会的要因が大きく関わります。お互いが自立し、そして対等な立場で、友人のように助け合っていくことで、人は、そして家族、コミュニティ、国もまた、健康を手にすることができるのです。

健康とは、自らの力を信じ進んでいけること—
一人ひとりが。
家族が。
村が。
国が。

発刊予定の「Healping Health Workers Learn」日本語版（サンプル）

# 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。 |
| 活動の時期 | 2013年以降 |
| 関連URL | 男女共同参画奨励賞 |

# 名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画

| | |
|---|---|
| 活動の概要 | 2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。<br><br>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。 |
| 活動の時期 | 【男女共同参画宣言】2012年3月<br><br>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長） |
| 関連URL | 男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション |